

久留米

〔July 18, 2014〕

高専通信

第76号

久留米工業高等専門学校企画主事室
〒830-8555 久留米市小森野1-1-1
TEL:0942-35-9300
<http://www.kurume-nct.ac.jp/>

新入生へのことば 「玉磨かざれば光なし」

皆さんが入学して早くも4か月が経ち、高専最初の1年の3分の1が終わりました。

4月7日に入学してから卒業する3月末までの5年間を日数にすると1,820日であり、この7月末までに116日が過ぎました。8月以降の残りはあと1,704日で、卒業に向かってカウントダウンは毎日続きます。「1年生のときに、先輩に5年間なんてアツという間だよと言われたけれど、5年生になってその言葉を本当に実感した」という皆さんの先輩が卒業したときの言葉を入学式で紹介しましたが、皆さんも今振り返ってみて、少し実感が湧くのではないのでしょうか。

さて、皆さんは高校に進学した友人より一足先に「学生」になりました。学校教育法という法律で、高専生は大学生と同様に「学生」と定められていて、高校生は「生徒」となっています。高専は、高校とは異なり、大学と同様に自由に使える時間が多く、色々自分のやりたいことができる反面、怠けがちな人には厳しい環境です。それは、高専が中学や高校のように「教えてくれる」場ではなく、本校の教育理念の一つである「自立の精神」に示されているように、「自ら学ぶ」ことを基本としている大学と同じ高等教育機関だからです。

特に本校は、長い高等教育機関としての歴史と伝統があり、大学的な色彩が強く、周囲から口喧しく指示を受けることが少ないため、伸び伸びとできる一方で、自力で泳がずに流されていると、単に卒業しただけの5年間になってしまいます。皆さんの周りは、高度な知識や技術を有する先生方や優れた先輩・学友など、人間力を高める上での「宝の山」ですが、自分で掘り出さなければ宝を得ることはできません。

決して自らを甘やかさずに、高専で自分自身の可能性に挑戦してください。勉強、部活、文化祭や体育祭などの学校行事、友達づくりなど、卒業時に自分は高専でこれに打ち込んだと

アピールできるものを持てるように、日々切磋琢磨してください。

「玉磨かざれば光なし」という格言があります。これは、中国の古典『礼記』(らいき)の中に「玉不琢不成器、人不学不知道」(玉琢(たまみが)かざれば器(うつわ)を成(な)さず、人学ばざれば道を知らず)と書かれていることに由来しています。「玉」とは美しく価値のある石、宝石のことですが、いかなる宝石でも初めからキラキラと輝いているわけではありませぬ。原石を研磨して、ようやく美しく輝く宝石になるのです。

日本の禅僧で曹洞宗開祖の道元禪師が説いた言葉や問答を弟子たちがまとめた『正法眼蔵随聞記』(しょうぼうげんぞうずいもんぎ)の中で、道元は、玉は琢磨によって器になる、人は錬磨によって徳を備えた人(仁)になる、初めから光っている宝石はないし、初心から優れている人間はないので、必ず磨かなければいけない、修練しなければいけない、自ら能力が無いと卑下して、修行を緩くしてはいけないということを説いています。

千円札の肖像になっている、アフリカで黄熱病の研究をした野口英世博士は、「誰よりも、3倍、4倍、5倍勉強する者、それが天才だ」という言葉を残しています。千円札を見るたびに、この言葉を思い出してください。

皆さんは、入試の難関を突破したことで高いポテンシャルを持っていることは証明されていますが、優れた才能や素質を持っていても、高専入学後も、引き続き努力して自分自身を磨いていかなければ、決して光ることはありません。

高専生活は無限に続くものではなく、限られた時間であることを常に意識して、時間のある限り自分自身を磨き続け、高専生活を通じて確固たる人生の礎を築かれることを願って止みません。



久留米工業高等専門学校
校長 上田 孝

新入生の抱負

機械工学科に入って

機械工学科1年 川戸 大誠

私は小学校の低学年の頃から高専に入りたと思っていました。そのきっかけはテレビで見たロボットコンテスト(通称:ロボコン)でした。もともとロボットに興味があった私は、学生が自分で作ったロボットの性能やデザインを競い合い、白熱した戦いを繰り広げていたのを見て、自分も高専に入ってロボットコンテストに出たいと思っていたことを憶えています。

入学してすぐ、夜須高原へ1泊2日の合宿研修に行きました。合宿初日ではまだ、クラスの雰囲気がよくそしかったのですが、二日目の綱引きで一気にクラスが団結したと思います。前日から機械科の先輩方と綱引きの作戦を立て、本番ではみんなが大声を出して団結し、見事に優勝することができました。今思い出しても楽しい気分になるくらい、生涯忘れることのできない合宿研修でした。

今年の機械工学科は男子42名、女子0名・・・これで久留米高専機械科は3年連続女子がいないことになります。最初は女子がクラスにいないことを知って少し残念だと思っていましたが、夜須高原の合宿研修が終わった頃くらいから、異状にクラスがにぎやかになり、今では男子クラスならではの楽しい雰囲気で毎日とても楽しいです。

もうすぐ入学して初めての定期試験が実施されますが、高専は留年してしまう人が非常に多いと聞いています。なんと少しでも留年だけはしないように、試験勉強を頑張ろうと思います。特に、大学進学を目標としている人はクラスの中でもトップにならなくてはいけないということも聞いています。私も大学進学を目指しているので、しっかりと勉強したいです。



合宿研修に参加して

電気電子工学科1年 池田 尚史

4月25・26日に、国立夜須高原自然の家に合同研修に行きました。森や山に囲まれた、自然が豊かな場所でした。私たちはそこで、オリエンテーリングに参加したり、高専生活などについて、先輩や先生、施設の方々からお話を聞いたりしました。

オリエンテーリングでは、今まで話したことのなかった人と話すことができ、また既に仲のよかった人ともさらに親睦を深めることができました。オリエンテーリングを通じ、日常生活では体験できないようなことをたくさん体験し、自然のよさにあらためて気づくことができましたと思います。

25日夜のクラス交流会では、お互いに自己紹介をしたり、先輩や先生からのお話を聞いたりしました。自己紹介では、クラスのみなのことを知ることができました。これから5年間同じクラスで頑張っていくクラスメイトが、ユーモアにあふれた楽しい人たちばかりだということがわかり、良かったです。

先輩や越地先生のお話からは、高専生活の注意点や、進路などについて学ぶことができました。高専生活の注意点では、高専が自由であることと、その反面自己責任でなんでもしなくてはならないということを知りました。進路については、就職が決まっている先輩方から履歴書や面接に関する話を聞くことができました。お話を聞く中で、就職活動の際、高専で頑張ってきたことをしっかりとアピールできることが大切だと感じたので、自分も様々な行事にも積極的に参加し、先輩方と関わりをもちながら、在学中になるべく早くやりたいことを見つけ、それに向けて努力したいと思います。

正直なところ、私は高専に入学するとき、勉強のことや友達のことなどで不安を抱いていました。しかし、夜須の合同研修で友達と仲良くなることができましたし、先輩方から聞いた勉強の仕方や高専生活におけるアドバイスを聞くことで、勉強や高専生活に対する不安は解消されました。この夜須研修での経験を活かして、有意義な高専生活を送りたいです。

最後に、高専はかなり自由な学校であるけれど、その分責任が必要ということを知り、けじめをつけて五年間を過ごしていきたいと思っています。

新入生の抱負

久留米高専に入学して

制御情報工学科 1年 吉村 龍成

久留米高専に入学して一ヶ月近く経ちました。今、思うとすぐ一瞬です。クラスマッチでは、サッカーをクラスで協力し、楽しむことができました。毎日、学校に来ると笑顔になれることが必ずあります。それが久留米高専に来て良かったなぁと思うことのひとつです。久留米高専は人とのつながりがとてもあつように思います。そのために時間もあるのかなぁとも思います。先輩方はとてもやさしく人情に溢れた人達だなぁと思います。友達、先生、先輩方に支えてもらいながらであれば5年間やっていけるような気がします。

部活動では、先輩が丁寧に接してくれて、自分のやりたいことが思う存分できています。僕は、サッカー部で日曜日に試合があったときに、サッカーコートをつくらなければなりません。僕は、サッカーコートを作ったのが中学1、2年以來なかったので寸法を忘れていました。その時、先輩は、やさしく教えながら作ってくれました。だから、僕はこんな先輩達に感謝し、尊敬していきたくて思いました。勉強の面では、100分授業で正直眠気が来るし、とてもつらいです。しかし、自分の好きな勉強ができていますので楽しいという部分もあります。

5年間学ぶ中で、どうにも超えられないような壁が立ち始めると感じます。その時に、あきらめるのか、何度も戦い立ち向かうのかは自分次第だと思います。その時、後者を取ることができる自分になれるように、今の自分を精一杯磨きたいと思っています。どうしようもないときは、友達や先輩方に相談できたらいいです。

生物応用化学科の抱負

生物応用化学科1年 森 虎之助

私は久留米高専の大きな特徴である、『自立の精神』に焦点を置き、クラスとしての目標を考えました。

久留米高専は体育祭や文化祭のような大きな行事から、ロングホームルーム等の細かな行事まで先生方は基本的に不干涉です。これは普通の高校ではなかなかできないことだと思います。普通の高校ではだいたい先生から言われたことに従ってやっていくだろうと思います。行事等を学生主体で進めていくには、普通の高校にはない高専の特殊な条件が必要だと私は思います。

その条件とは、『経験』です。高専は五年あるため普通の高校より関わる年数が長くなります。さらにアルバイトも許可されているため、社会で多く経験を積んでいる人がたくさんいます。よって、先生方に頼りきることなく、行事を学生主体で

進行させていくことができます。

上から言われたことだけしかできない人間では、社会では活躍できません。特に技術者としては、自分でやるべきことを見つけれないのは致命的だと思います。高専の『自立』とは自分でやるべきことを見つける経験を積む大きなチャンスになると思います。私たち一年生は経験が不足しているため、なかなか自立というのは難しいことです。しかし、それに甘んじて良いわけではありません。そこで、私たちの目標は、「自立するための経験を積み、自ら積極的に行動していく。」というものにしたいと思っています。そして、上の学年になった時にみんなをまとめる立場としてやっていきたいとおもいます。

せっかく高専を選んできたので、こういった経験を積むチャンスを逃さずに行動していきたいと私は思います。

行事を通して感じたこと

材料工学科 1年 重松 実弥

私は高専に入り、これまでの行事や日々の生活の中で多くのことを経験することができました。まず私たちは入学して約二週間後に夜須研修へ行きました。初めはこのクラスでうまくやっていけるかなと不安な面もありましたが、この夜須研修を通して一人一人のことを知ることができ少しずつ仲良くなっていけたと思います。そして、先輩方や他のクラスの人たちとも交流することができ、あつという間の二日間でした。次にクラスマッチがありました。クラスマッチでは長縄で一位をとることができました。みんなで声をだしてきつても飛び続けました。だからこそ長縄での一位は本当に嬉しかったです。他にもサッカー、バスケ、バレーとどの種目においても一人一人がクラスのために戦ってくれたと思います。六月の初めには中間テストがありました。今回の中間テストは高専に入り、初めての定期テストということもあり、少し緊張はありましたがなんとか乗りきれたと感じます。中間テストを通して感じたことは日頃の積み重ねが大切であるということです。課題を見つけたらそのつど解決していく、そして毎時間の授業を集中して取り組むことも積み重ねの一つだと思います。勉強に取り組む中で反省点も見つかったので、その反省を生かし夏休み明けの期末テストに向けて努力していきたいです。最後に、先日行われた文化部発表会では、一年生コンテストでステージ上に立ち改めて人の支えというものを間近に感じることができました。特に実行委員の方々がステージの準備や当日の受け付けなどを行っている姿を見て、みんなのために、誰かのために行動することはいいことだなぁと思いました。自分のことばかり考えて行動するのではなく、誰かのためにという思いやりの心をもってこれからの高専生活を過ごしていきたいです。

留学生紹介



機械工学科 3年 ムイズ
はじめまして。私はマレーシアから来た留学生のムイズです。私を入れて3人兄弟で2番目です。2011年の6月から2年間くらい、マレーシアの大学の日本語予備学校で日本語と一般科目を学びました。日本に留学して、今まで見えなかった日本のいいところや面白いところが見つかるようになりました。自分の国を外から見て見るのが大切だということが分かりました。

私の趣味はバドミントンです。ですから、私はバドミンントンの部活に入っています。

将来はエンジニアになって、日本で学んだ知識を国の発展に使えばいいと思っています。3年を通じて、勉強のことだけでなく、それで友達を作り、日本の文化をもっとよく知りたいです。私はこの高専を卒業するまで、皆さんと一緒に楽しい高専生活を過ごしたいと思います。



材料工学科 3年 ラマン
初めまして、私はインドネシア出身の留学生で、アマド・アブドゥラマンと申します。昨年4月から1年間にわたって、東京日本語教育センターで日本語と高専への編入学に必要な基礎科目を勉強しました。日本語学校での多くの経験をきっかけに、様々な日本文化や日本の生活習慣などを学びました。日本が優れた技術を持っていて、姉が日本に住んでいることもあったので、日本で様々な技術を修得したいと思うようになりました。

私は久留米高専で一生懸命に材料工学を勉強し、国際的な友人をたくさん作って、楽しい高専生活を過ごしたいと思います。卒業後は、日本の国立大学に進学したいという夢を持っています。そのため、高専での3年間はクラスメートの皆さんと一緒に楽しく頑張りたいと思いますので、先生方もご指導よろしくお願ひいたします。



材料工学科 3年 ルバ
はじめまして、私はマレーシアから来た留学生のルバと申します。現在、3年生の材料工学科で勉強しています。日本に来る前の2年間くらい、マレーシアのマラ工科大学国際教育カレッジの高専予備教育コースで日本語と一般科目を学びました。

私の印象として、日本は本当にきれいな国だと思います。特に、久留米はとてもきれいだと感じています。また、日本は世界で最も優れた技術を持っている国ですので、久留米高専の材料工学科で基礎学力を身につけて、将来的には日本の新しい材料技術を学びたいと思っています。

私は小さいころから環境に大きな興味を持っており、実際に日本に留学して材料工学を勉強することを決意しました。留学中に皆さんと一緒に様々な経験をして、日本の良いところを学びたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

新任教職員紹介



岩本 才次
所属 機械工学科
職名 教授
採用日 平成26年4月1日
前職 鹿児島高専 機械工学科 教授

抱負 本年3月に鹿児島高専を定年退職し、4月から再雇用にて久留米高専に勤務させて頂くことになりました。よろしくお願ひいたします。

前任校の学生は団体行動が得意でしたが、本校は大学のような雰囲気です。学生が自立しているのだと思います。前任校では全教科ほとんど選択科目で未履修の学生が出て余りにしませんでした。本校は全科目必修ですので、単位を落とす学生が出ないように全力で教育に臨みたいと思います。ご指導ご鞭撻をよろしくお願ひいたします。

趣味 船旅、ハイキング以上登山未満(冬山を除く)、へぼ将棋とざる碁



山村 基久
所属 機械工学科
職名 准教授
採用日 平成26年4月1日
前職 岐阜工業高等専門学校

抱負 企業でのモノづくりの経験を高専での人づくりに役立てたいと、岐阜高専で9年間設計製図の授業改善に取り組んできました。三次元CADを積極的に利用した授業カリキュラムの改善と教材開発を進めてきましたが、その知見が少しでも久留米高専の「自立」の教育に役立てば幸いです。高校時代は久留米に通っていたこともあり、古い友人や懐かしい思い出の地でもあります。短い間ですが、よろしくお願ひいたします。

趣味 若いころは登山が好きで、結婚してからは家族でキャンプ。今は旅行や温泉、透明水彩にも取り組んでいて、美術館に絵を見に行くのも好き。秘かに絵の教授法も研究中



嶋田 英樹
所属 電気電子工学科
職名 准教授
採用日 平成26年4月1日
前職 佐世保工業高等専門学校 電子制御工学科

抱負 高専間教員交流で1年間久留米高専にお世話になります。短い期間ですが、教育・研究・課外活動等でお役に立てるように頑張りたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

趣味 車、写真、料理

新任教職員紹介



安部 規子
 所 属 一般科目(文科系)
 職 名 教授
 採用日 平成26年4月1日
 前 職 有明高専 一般教育科 教授

抱 負 4月1日付で一般科目に着任しました。生物応用化学科の1年を担当し、授業は1年、4年、5年、専攻科の英語を担当しています。授業では、こちらからの問いかけにどんどん答えてくれる様子に感心し、部活や学校行事にも伸び伸びと熱心に取り組んでいる学生の皆さんの様子を見せてもらっています。学生の皆さんのコミュニケーション能力の向上や国際交流に貢献していきたいと思っています。よろしくお願いします。

趣 味 趣味は弓道です。海外で日本の文化について尋ねられ、何も答えられなかった経験がきっかけとなり、日本の武道を始めました。現在の段位は五段ですが、最近はあまり練習に行くことができないので残念です。老後の楽しみとしてもずっと続けていきたいです。



芦中 辰也
 所 属 教育研究支援室
 職 名 技術専門職員
 採用日 平成26年4月1日
 前 職 職業訓練指導員

抱 負 約20年の間、主に機械加工の職業訓練(在職者、高卒、離職者)に従事してきました。今まで培ってきた機械加工に関する知識と技能を、機械工作の実習、研究活動の技術支援業務等に役立てていきたいと考えています。

趣 味 自転車(サイクリング、競技)



黒飛 敬
 所 属 一般科目(理科系)
 職 名 准教授
 採用日 平成26年4月1日
 前 職 特定助教
 (京都大学物質-細胞統合システム拠点)

抱 負 学生時代も含めると化学の研究に18年携わって来ました。4月から本校に着任し2ヶ月以上経ちましたが、授業では逆に学ぶことも多く、まだまだこれから課題が山積みだと感じています。本校の教育理念に沿った魅力的な人材の育成に貢献すべく、努力してまいります。宜しくお願いします。

趣 味 自転車、絵画、写真、化学実験



中野 英子
 所 属 学生課 教務係
 職 名 事務補佐員
 採用日 平成26年4月1日
 前 職 九州大学筑紫地区会計課
 経理係 事務補佐員

抱 負 学生課に採用になり、先生方や学生さんなど人と接する機会が増えると思いますが、相手に寄り添い思いやりを持って対応していきたいと思っています。その為にも仕事を早く覚えたいです。

趣 味 映画鑑賞



栗田 耕
 所 属 総務課
 職 名 総務課長
 採用日 平成26年4月1日
 前 職 大分工業高等専門学校
 総務課長

抱 負 平成26年4月1日付で大分工業高等専門学校から転任してまいりました総務課長の栗田でございます。高専での勤務は三度目ですが、本校は施設整備事業進行中の高専でありますので、学生諸君が高専生活を快適に過ごすことができるように環境整備の充実に努力いたします。また、学生諸君の朝の活気溢れる挨拶には、清々しい一日を迎えられることができるので感心いたしました。この様な環境の中で勤務できることを誇りに思います。今後ともよろしくお願いいたします。

趣 味 ゴルフ



牛島 初子
 所 属 学生課寮生活支援係
 職 名 寮母
 採用日 平成26年4月1日
 前 職 銀行行員

抱 負 寮母という職において、寮生の日々の生活の中で、何らかの形で手助けができれば良いと思います。

趣 味 読書

創基75周年・高専創立50周年記念事業

教務主事 和泉 直志

皆様ご存知の通り、昭和14年(1939年)に久留米高等工業学校として創立され、昭和39年(1964年)に現在の久留米工業高等専門学校となりました。本年はこれから数えて創基75周年、創立50周年にあたります。そこで本校の輝かしい歴史を祝うとともに、伝統を踏まえて教育研究活動及び地域貢献活動の充実を図り、本校のさらなる飛躍を目指す契機とするため表1に示すような記念事業を行います。

この記念事業の中心的行事として、11月1日に久留米市民会館にて記念式典、記念講演会、ならびに祝賀会を開催致します。記念式典に引き続き開催される記念講演会では豊橋技術科学大学前学長の榊 佳之先生にご講演頂きます。榊先生は生命の設計図とも言うべき遺伝情報を分子生物学的に明らかにするゲノム科学において顕著な業績をあげて来られた方で、我が国のヒトゲノム計画及び国際ヒトゲノム計画のリーダーを務められました。生命科学の最先端のご研究に関するご講演は、技術者として広く活躍することになる学生諸君を初めとして、聴講者の貴重な財産となるものと思えます。

記念講演の後、祝賀会が開かれますが学生諸君は高専祭のため学校へ戻ります。表2に学年暦を示していますが、記念行事に参加されました卒業生の方々に高専祭の文化祭に参加頂けるよう、高専祭期間中の記念行事開催といたしました。そのため、高専祭の開始を例年に比べ2日早めるとともに、1日長くしました。また、例年前夜祭での花火の打ち上げを、この11月1日に行う予定です。

本校のあゆみを残すために高専創立40周年誌に続き、この10年の出来事を中心に記録した記念誌を発刊いたします。現在、本校のこれまでの歴史を調べるにはこれまで編まれた記念誌が頼りですが、今回の記念誌も後生へ長く残るものとなるでしょう。現在、執筆をお願いしており来年2月の発刊予

定です。

また、本高専通信についても創基75周年・高専創立50周年記念特集号を発行する予定で、高専機構 小畑 秀文理事長と本校卒業生で直木賞作家の安部龍太郎先生との対談を掲載します。この他記念事業のためのロゴマークの制定や公開講座の記念事業の一環としての実施も行います。

以上の記念事業は、平成24年から本校同窓会を中心として行っております募金によって実施します。これまで約800名の方から1600万円余りのご寄付を頂いております。この募金は、現職および退職した教職員にもお願いし、保護者様には募金趣意書と振込用紙を同封しておりますので、ご寄付願えればと存じます。なお、11月1日の記念行事や記念誌の発行に要する費用等を差し引いたご寄付は、学生支援、環境・設備の充実、地域社会貢献、卒業生との交流事業等に活用させていただく基金といたします。ぜひ、よろしくお願い申し上げます。

これら記念事業の実施のため、現在、校長を委員長、主事、学科長、事務部で構成する実行委員会を組織し、準備を進めているところです。成功に向けて学生諸君の参加、保護者、卒業生、教職員のご理解とご協力をお願い致します。

表2) 学年暦

10月	29 水	平常授業
	30 木	高専祭準備
	31 金	高専祭(前夜祭)
11月	1 土	創基75周年・創立50周年記念行事 高専祭(文化祭)
	2 日	高専祭(文化祭)
	3 月	文化の日
	4 火	高専祭(体育祭)
	5 水	後片付け
	6 木	平常授業

10月30日～11月5日の高専祭期間中は授業なし

表1) 記念事業概要

行事名	開催日時	会場	内容	参加者
記念式典	平成26年11月1日(土) (10:30～11:20)	久留米市民会館 大ホール (収容人数:1,348名)	校長式辞、来賓祝辞	学生、来賓、卒業生、保護者 教職員等
記念講演会	平成26年11月1日(土) (11:30～12:30)		講演 榊 佳之 先生 文化功労者 東京大学名誉教授 豊橋技術科学大学 前学長	
祝賀会	平成26年11月1日(土) (13:00～15:00)	久留米市民会館 小ホール (収容人数:240名)	立食形式	来賓、卒業生、保護者 教職員等

事業名	時期	内容
基金創設	平成27年4月	募金状況に基づき創設可能な基金を創設する。 (学生支援、環境・設備の充実、地域社会貢献、卒業生との交流事業等)
記念誌の刊行	平成27年2月	創基75周年・高専創立50周年記念誌を刊行する。
高専通信 特集号の発行	平成26年12月	高専通信の創基75周年・高専創立50周年記念特集号を発行し、高専機構 小畑 秀文理事長と本校卒業生安部龍太郎氏(直木賞作家)との対談を掲載する。
ロゴマークの制定	平成26年7月	創基75周年・高専創立50周年のロゴマークを作成する。
公開講座の実施	平成26年度実施分	本校主催の公開講座を記念事業の一環として実施する。

ものづくり教育センターリニューアルオープン

教育研究支援室長補佐 石丸 良平

平成26年4月23日、テクノネット久留米会長をご来賓としてお招きし、ものづくり教育センターの開所式を挙行了しました。ものづくり教育センターは、旧機械電気実験実習棟(1330㎡)および旧機械工作工場(730㎡)の2棟を改修し、ものをつくる基礎的技術をベースにIT技術を応用した新世代の生産技術へ発展させ、新しい機械加工やスマート電力の生産制御技術へ対応できる技術者育成と、産業界へ技術貢献のできる機能を有している施設です。

本センターは南北2棟からなり、北棟は東からケミカルエンジニアリング・エラストマー研究室、高圧実験室、電気機器・自然エネルギー実験室、メカトロニクスデザイン室、造形実習室、鋳造実習室、溶接・成形実習室と並び、2階には創造デザイン室を配置しています。南棟は機械加工実験実習室をメインに、精密測定室、加工技術研究室、技術相談室を小部屋で仕切る配置となっています。

ケミカルエンジニアリング・エラストマー研究室は、セミナー室・資料室と実験室を分離し、実験室は実験・分析・計測・工作など機能的にゾーニングしました。また、ゴム加工技術者人材育成講座も開催されます。高電圧実験室、電気機器・自然エネルギー実験室では、雷発生装置や照明実験など従来の実験環境を確保しつつ、太陽光発電と電力会社からの送電を最適利用する実験設備や回路設計室やデータ解析室を設け、創造・実践的要素の充実を図りました。メカトロニクスデザイン室は、CADによるデジタル回路設計教育や、CAD/CAMによる造形を隣室の3DプリンタやNC工作機械にネットワークにより学習できる設備を設けています。北棟2階には創造デザイン室を配置し、ものづくりにおける設計製図と加工の一体化を図りました。また、新たにA1サイズ対応のドラフターを50台導入して、手書き製図による教育を充実させました。

実習関連施設として、従来の基礎的な実習(木型、鋳造、鍛造・溶接、機械加工・手仕上げ)を行う設備を確保しつつ、新しくIT技術を応用したものづくりに対応できる実習環境を整えました。造形実習室は従来の木型による造形のみではなく、新しく3DプリンタやNC工作機械による造形実習教育に対応できる設備となりました。鋳造実習室には、新たに100kg電気炉を導入し、従来のキュボラ炉と含めた素材製作実習が可能となりました。溶接・成形実習室では、鍛造エリアと溶接エリアを隔離し、安全性を向上させました。機械加工実験実習室は、安全通路を確保し、旋盤、NC工作機械などを機能的に配置しました。床は、作業者の足腰への負担軽減のために従来の木レンガを

伝承しました。また、展示コーナーにより、外部からの訪問者に対して分かりやすく説明するスペースを設けています。

今回の改修で新たに加工技術研究室、技術相談室を設けました。加工技術に関する企業との共同研究や地域連携に一役を担うことができます。また、北棟と南棟の間にある中庭を、ロボコンなど各種活動に活用できるよう整地しました。さらに、案内板、多目的トイレ、街灯などの設置により、教育環境をより一層向上させることができました。

今回の改修工事にあたり、御尽力いただいた関係各位、実験・実習の時間割変更等で不便をおかけした学生諸子に深く感謝いたします。



開所式(平成26年4月23日)



機械加工実験実習室



創造デザイン室

保護者の皆様への公開授業について

教務主事 和泉 直志

保護者の皆様への授業公開を4月21日(月)～23日(水)の3日間行いました。この授業公開は、平成22年度に始まり、今回が5回目です。過去3年間のご来校者は、104名、128名、128名と増える傾向にありましたが、本年度は更に増えて163名という多くの方にご来校頂きました。心よりお礼申し上げます。

学年別の来校者数は、1年91名、2年35名、3年26名、4年9名、5年2名でした。3年生までで90%を超過するのは例年と同様でした。本年の特徴は3年生の参観者が増えた(昨年度10名)ことでした。この来校者数はこの学年の昨年度の参加者数30名に近いものです。本科3年では専門科目が増え、授業内容が難しくなる学年です。そのため、残念ながら留年する学生が出て参ります。来校者の多さから伺われるご関心の高さは、ご心配とも解釈できます。ご心配事があればご遠慮なく担任へご相談下さい。

一方、この公開授業では参観者の皆様に①開催時期、②教員の指導、③学生諸君の真剣さについてアンケートをお願いし、4段階でご回答いただいております。開催時期については、適切61%、ほぼ適切33%と妥当と評価して頂いております。これは過去2年と同様な結果で、1年生の合宿研修や5月の後援会総会(午後にクラス懇談や個人懇談を行っております)との時期的関係から、来年度もこの時期の実施を考えております。教員の指導については、「大変分かりやすかった」28%、「分かりやすかった」59%で、良い評価の合計はほぼ同じでしたが、「大変分かりやすかった」が昨年の36%から少し減ったのが気になります。学生諸君の授業態度については「大変真剣であった」「真剣であった」をあわせて84%と昨年度86%と同様でした。

アンケートの自由記述欄では、1年生の保護者の方からは「子供達の授業の雰囲気分かって安心しました。」という、実施の意図に応えるコメントを頂戴し嬉しく思っております。また、学生の授業への取り組みに関しては、1年生では「学生が授業に集中している雰囲気があり、とても良かったと思いました。」というような真剣な様子を描写頂いております一方、高学年では「ついウトウトしている学生がどの教室にもいます。」というご指摘をいただきました。

また、昨年多くご意見を頂きました教室の清掃については、「教室が綺麗で良かったです(去年はごみが散らかっていたので)」というように改善されてはいるようです。また、昨年同様、あいさつの不十分さもご指摘頂きました。これら生活態度は真剣な授業への取り組みとともに、基本的習慣として重要なものですので、日々指導に努めて参りたいと考えています。

「暴力団排除教育を受講して」

電気電子工学科1年 江崎 喬祐

私は今まで暴力団をカッコいいとまでは思わなくても、自分たちには関係ないことだと思っていました。昔はニュースでも暴力団のことが取りあげられていましたが、現在は目立った報道はなく、またニュース以外でも耳にしていなくて、安心していました。しかし、あくまでニュースにならないだけで、現在でも多くの悪事を行っているということを知り、残念に思いました。

福岡県は指定暴力団の数が日本一だと聞き、驚きました。その福岡県の暴力団が販売する覚せい剤の価格が、全国の平均価格に比べてかなり低額であることから、より身近に出回っているということについても、私たちは気をつけなければいけません。現在は様々な方法で、拳銃や覚せい剤、大麻、MDMAなどを暴力団が運んできているそうです。薬に至ってはどんな手段を使ってでも密輸・売買しようとしているとのことなので、やはり恐ろしさを感じます。

そうした違法な薬や覚せい剤は、インターネットを通じてやりとりされることが多いとも言われていました。暴力団は、出会い系サイトだけではなく、友達を作るためのごく一般的なウェブサイトを使って近づいてくることもあると聞き、衝撃を受けました。やはり普段から様々な場所で言われているように、インターネットを通じて安易に人にあってはいけないのだと強く思いました。

私はこれまで、暴力団の中には高度な専門知識を持った人はそこまで多くないと思い込んでいました。しかし、脱法ハーブを販売する時など、法律をかいぐるために化学的な構造を一部かえて販売しているという話を聞き、それが思い込みに過ぎないということを知りました。私も専門的な工学技術を学ぶ者の一人として、せっかく身につけた専門的な知識を、そのようなかたちで使う人たちがいることに悲しさを覚えます。

ただ最近、暴力団組員数がかなり減っていると知り、少し安心しました。暴力団全員が、福岡県からいなくなるとは思いませんが、せめてワースト一位からは、抜け出せたら、と願うばかりです。

ケータイ安全教室について

学生会 中央執行委員会文化局 局長
制御情報工学科3年 吉田 涼一郎

本科3年生以下の学生に対して、ケータイ安全教室が実施されました。このケータイ安全教室は、株式会社NTTドコモ様のスタッフが、2004年から全国規模で行っているケータイ安全教室を、ここ久留米高専で行うというものでした。

この教室では、インターネット上でのトラブルやフィルタリングサービス、ケータイ依存、ながらスマホなどについての話がありました。その中でも、私が、特に久留米高専生が気をつけるべきだと思うことが二つありました。

一つ目は、インターネット上のトラブルです。特に、SNSでの個人情報の流出にあたるような投稿などを絶対にしないように気をつけてもらいたいです。Twitter上で、当高専生らしい人がそういったツイートをしているのを何度か見かけたことがあり、これは問題意識の薄いところだと思います。ネットリテラシーを高めて、健全にSNSを活用してもらいたいです。

二つ目は、ケータイ依存です。LINEやTwitter、ゲームアプリなどに時間を使いすぎて、勉強や睡眠を犠牲にしている人が少なからずいると思います。睡眠時間の減少と勉強時間の不足は、成績悪化の原因となり、最終的には留年にも繋がるかもしれません。こういった状況に陥りつつある人は、自分でけじめをつけ、しっかりと睡眠と勉強をとってもらいたいです。

この教室での話を忘れずに、安全にケータイ・スマホを活用していきましょう！



ビジネスマナー講習会

学生会 中央執行委員会 副委員長
電気電子工学科4年 濱久保 智基

6月18日の16時から、本校D4教室にて主にインターンシップに行く学生を対象としたビジネスマナー講習会を開催しました。この時期に開催した理由は、最近のインターンシップが学生の就業体験の場だけではなく、受け入れ先企業が新入社員採用のための情報源としても利用する、という話があり、以前からこの時期に講習会を開催してほしい、という当校学生の要望を実現するためでした。

本講習会を開催するにあたり、講師には株式会社魚国総本社九州支社の田川剛様にお越しいただきました。田川様とは、開催日の1週間前に、当校3、4年生に実施した事前アンケートの結果をもとに、講習会の内容についてミーティングさせていただきました。その結果、インターンシップに行く前の心構え、より印象を良くするための敬語の使い方や電話を掛けるうえで気を付けるべき点など、重要となる点を分かりやすく詳細に教えていただきました。講習会終了後に収集したアンケート結果の評判も良く、参加学生にとって大変有意義なものとなりました。

おかげさまで、参加学生は当初想定した人数を大きく上回り、約150人となり大盛況でした。このような結果になったのも、協力していただいた方々のおかげだと思っています。この場でお礼申し上げます。また、あまりに大盛況であったため、事前に準備した資料が一部不足してしまう事態となりました。この場でお詫び申し上げます。

次回は、履歴書の書き方や自己PRの仕方、面接におけるマナー等をメインテーマとした、「就活支援セミナー」を開催予定です。学生の皆さん、来年度の就職活動を乗り切れるよう、次回も是非ご参加ください！



前期クラスマッチ

学生会 中央執行委員会体育局 局長
機械工学科3年 見良津 凜

5月7日の昼から翌日にかけて、前期クラスマッチが開催されました。2日間とも問題なく、予定通り進行することができました。この場にて、協力して頂いた皆さんに感謝いたします。

さて、我が校のクラスマッチでは、クラス単位で参加する種目としてサッカー、バスケ、バレーボール、大縄跳びを行っており、その他に女子学生を対象とした競技として女子ドッジボールと女子バレーボールを行っています。今回のクラスマッチから、唯一20人以上の団体で行う大縄跳びの景品(お菓子の詰め合わせ)を各学年の1位に贈呈するようにしました。そのためか、大縄跳びに力が入るクラスも見受けられました。また、サッカー、バレーは全学年でのトーナメントにて、バスケは各学年のトーナメントにてそれぞれ争われ、ともに白熱した展開となっていました。

ここで結果を報告させていただきます。各競技の優勝チームは、サッカーは2年材料、バレーは4年材料、バスケの1年生の部は生化、2年生の部は機械、3年生の部は電気、4年生の部は生化、5年生の部は機械、大縄跳びは1年生の部は材料、2年生の部は制御、3年生の部は生化、4年生の部は制御、5年生の部は生化が優勝しました。

上位に入ったクラスには景品として金券も贈呈されました。2日間の決戦がおわり、ホッとしている学生も見られました。どのクラスも楽しそうに参加していたので、前期クラスマッチは大成功に終わったと感じています。後期にもクラスマッチが行われます。今回のクラスマッチで得たものを、後期に繋げていっていただけたらと思います。



第三回文化部発表会

学生会 中央執行委員会渉外局 第三回文化部発表会実行委員長
制御情報工学科4年 中村 郁海

6月28日(土)に第三回文化部発表会を開催しました。毎年、開催日前日から大雨に見舞われることが多いのですが、今年はそのようなこともなく、無事に当日を迎えることができました。今回は、西鉄久留米駅でのピラ配りや、市内の中学校、高等学校へのポスター掲示など、学外での広報活動にも力を入れました。その結果、来場者数も約900名以上となり、体育館の観客席には人が入りきれないほど大盛況となりました。

今回は、昨年の反省を踏まえ、ステージへと向かう人々全員が文化部展示を見学できるように、体育館内に通路を設置し、その両側に展示を配置するよう工夫しました。そうして、文化部コンテストの投票を行った結果、今年は鳥部が一位に選ばれました。回数を重ねるごとに展示のクオリティも上がり、前回以上に日頃の活動の成果が表れていました。また、ステージ発表では、文化部の中から軽音楽部、ダンス愛好会、ピアノ同好会に参加してもらいました。今回は、ピアノ同好会と軽音楽部のコラボ演奏もあり、非常に迫力のある素晴らしいものとなりました。ステージイベントも昨年以上の盛り上がりで、特にメインイベントのスマブラ大会では、当日一番の熱狂となりました。一年生コンテストでは、どの学科も本番に向けて練習を積み重ねてきた様子が分かり、その頑張りに観客席の人も惹きつけられていました。観客者全員が楽しそうに参加してくれていたことに、運営側としても大変な喜びを感じました。

数々の試行錯誤を繰り返した結果、今年の第三回文化部発表会は大成功に終わりました。これも、多くの方々のご協力があったこそだと思っています。この場を借りまして、文化部発表会に関わったすべての皆さん、そして当日お越し下さったすべての皆様にお礼申し上げます。本当にありがとうございました！



平成26年度 九州沖縄地区高専体育大会日程予定表

担当校	種 目	会 場	7月11日 (金)	12日 (土)	18日 (金)	19日 (土)	20日 (日)
佐世保工業 高等専門学校	陸上競技	佐世保市総合グラウンド陸上競技場				○	○
	ソフトテニス	佐世保市総合グラウンドテニスコート (雨天時 サンビレッジさざ)				○	○
	バドミントン	佐世保市東部スポーツ広場体育館				○	○
	水泳	佐世保市総合グラウンドプール				○	
	ハンドボール	佐世保市体育文化館				○	○
北九州工業 高等専門学校	硬式野球	北九州市立桃園球場 北九州市立大谷球場			○	○	○
	バスケットボール(男・女)	小倉北体育館(男子第1日、男女第2日) 曾根体育館(女子第1日)				○	○
	卓球	中間市体育文化センター				○	○
	剣道	北九州高専第1体育館					○
久留米工業 高等専門学校	サッカー	八女東部スポーツ公園			○	○	○
	柔道	八女市総合体育館				○	○
	バレーボール(男・女)	久留米市みづま総合体育館				○	○
	テニス	熊本県民総合運動公園パークドーム	○	○			

担当校	種 目	会 場	11月15日 (土)	16日 (日)	17日 (月)	18日 (火)
佐世保工業 高等専門学校	ラグビー フットボール	佐世保市東部スポーツ広場 ラグビー・サッカー場	○	○		○

平成26年度 役職者・学級担任等一覧

◆主事

教務主事 和泉 学生主事 辻 寮務主事 泉本
専攻科主事 池田 企画主事 江崎

◆就職主任

機 械 工 学 科 中武 電気電子工学科(統括) 越地 制御情報工学科 熊丸
生物応用化学科 松山 材 料 工 学 科 馬越

◆学科長

機 械 工 学 科 原田 電気電子工学科 平川 制御情報工学科 丸山
生物応用化学科 富岡 材 料 工 学 科 笹栗 一般科目(文科系) 福田
一般科目(理科系) 宮本

◆学級担任教員

学科	学年	1	2	3	4	5
機 械 工 学 科		川 嶋	高 橋	石 丸	青 野	松 永
電 気 電 子 工 学 科		藤 木	伊 藤 公	宮 崎	ウ リ ン ト ヤ	山 本 哲
制 御 情 報 工 学 科		菰 田	河 合	堺	江 頭	中 野
生 物 応 用 化 学 科		安 部	谷	渡 邊	萩 原	松 山
材 料 工 学 科		金 城	小 宮	岩 田	矢 野	川 上

専攻	学年	1	2
機 械 ・ 電 気 シ ス テ ム 工 学 専 攻		綾 部	田 中 大
物 質 工 学 専 攻		奥 山	石 井

◆学生相談室

室 長 笈木
相 談 員 櫻木、山口、久保、菰田

◆キャンパス・ハラスメント相談員

総括相談員 笈木
相 談 員 原田、ウリントヤ、黒木、奥山、小宮、菰田、
吉光、成田、田中宗、野田

学生表彰

① 第16回算額をつくろうコンクール

NPO和算を普及する会が主催する第16回算額をつくろうコンクールにおいて、本校電気電子工学科1年の三俣愛真さんが銅賞(下平和賞)を受賞しました。

② 第24回 全国高等専門学校プログラミングコンテスト

第24回全国高等専門学校プログラミングコンテストの自由部門にて、本校「避難RouTing」がブロードリーフ企業賞を受賞しました。



①下平和賞を受賞した三俣愛真さん



②ブロードリーフ企業賞を受賞した「避難RouTing」

作品/チーム名	順位/賞名	受賞者
避難RouTing	ブロードリーフ賞 (研究開発キット6点)	プログラミングラボ部 4E 北川 巧、4S 岩本 海童、4S 八尋 俊希、 3S 古高 克己、3S 矢野 貴大

③ 東京理科大学第5回坊っちゃん科学賞

東京理科大学及び同窓会「理窓会」が主催する高校生対象の科学論文コンテスト「坊っちゃん科学賞」において、本校材料工学科1年の柁澤勇紀さんが「高良大社の算額」で、優秀賞に次ぐ優良入賞に入賞しました。



③優秀賞に次ぐ優良賞に入賞した柁澤勇紀さん



④論文賞部門で銅賞を受賞した中島光さん

④ 第14回日本数学コンクール論文賞

第14回日本数学コンクールにおいて、本校生物応用化学科2年中島光さんが「論文賞」の部門で銅賞を受賞しました。

⑤ 日本機械学会九州学生会 第45回卒業研究発表講演会

第45回卒業研究発表講演会において、石村慶成さん(機械工学科5年)、徳久真司さん(機械工学科5年)、東晃也さん(機械工学科5年)が優秀講演賞を受賞しました。

題目名	賞名	発表者
リン酸エステル併用条件下における有機モリブデン系添加剤の摩擦特性	優秀講演賞(機素潤滑設計)	機械工学科5年 石村 慶成
狭小流路内における薄板状木質バイオマスの燃焼界面パターン	優秀講演賞(熱工学)	機械工学科5年 徳久 真司
微粒化ノズルを用いた噴霧燃焼器の燃焼安定性	優秀講演賞(熱工学)	機械工学科5年 東 晃也